

＜ もくじ ＞	
1. 2019年度連続講座「人生100年時代、あなたはどう生きる？」 第1回のお知らせ	1
2. 研究会からのお知らせ	2
3. 各研究会の概要報告	2

1. 2019年度連続講座「人生100年時代、あなたはどう生きる？」 第1回のお知らせ

シニア社会学会恒例の連続講座は、東京家政学院大学千代田三番町キャンパスで、以下の日時と講師を迎えて開催されます。ふるってご参加ください。(全3回シリーズです)

男女とも平均寿命が50歳を超えることのなかった日本が、気が付いてみると100歳を超える人が7万人に達するようになりました。長寿時代に備えて、物心両面で準備することは、高齢者にとってのみならず、これから高齢期に向かう人たちにとっても、きわめて重要です。その際、どのような準備をすることが必要なのか、長寿社会日本の新たなモデルを求めて、多角的な検討が求められます。この講座が、皆さまのこれからの人生を設計するうえでお役に立てることを願っております。

＜第1回連続講座の概要＞

(1) 日 時：9月21日(土) 14:00～16:00

(2) 会 場：東京家政学院大学千代田三番町キャンパス 1301教室

(3) 講 師：上村 協子(東京家政学院大学教授)

(4) テーマ：家計管理・生活設計は人生100年時代はどう変わる

金融庁報告書「老後2000万円問題」で人生100年時代の金融リテラシーへの関心が高まった。日本の「家計簿文化」を再評価し、妻と夫、親と子の相続・贈与など資産移転を含めた金融リテラシーで、個人・家族・コミュニティを生活者のニーズにあわせてエンパワーする戦略を考えたい。

※ 詳細は、同送されたチラシをご覧ください。



＜第2回以降は以下の要領になります＞

(1) 第2回 10月19日(土) 14:00～16:00 1706教室

1) 講 師：吉田 太一(遺品整理会社キーパース社長・シニア社会学会会員)

2) テーマ：もしかして…売れない、貸せない“負動産”を所有していませんか？

(2) 第3回 11月30日(土) 14:00～16:00 1301教室

1) 講 師：川村 匡由(武蔵野大学名誉教授・シニア社会学会理事)

2) テーマ：終活のウソ/ホント

※ 各回とも資料代として参加費1,000円を当日会場にて頂きます。(ただし、学生は無料です)

※ 各回の前月のJAAS Newsにも掲載いたします。HPにも随時掲載いたします。

※ お問い合わせは事務局まで電話で、お申し込みは事務局までFAX・eメールにてお願いします。

2. 研究会からのお知らせ

(1) 第121回「社会保障」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2019年9月18日(水) 18:00~20:00
- 2) 報告者：大森正博(お茶の水女子大学教授)
- 3) テーマ：「医療制度における市場、競争の役割について～国際比較の視点」
- 4) 会 場：日本労働者協同組合連合会 会議室
東池袋1-44-3 池袋ISPタマビル 8階

※ご質問がございましたら、阿部(旧姓佐藤)または袖井まで
090-4436-6853(阿部)、090-4228-4421(袖井)
なお、8月はお休みです。

(2) 第15回「ライフプロデュース」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2019年9月25日(水) 18:00~21:00
※8月は休会します。
- 2) 場 所：内幸町 日本プレスセンター内日本記者クラブ9階ラウンジ
- 3) テーマ：「居場所がなく孤立した人間の見守り方、接し方」
- 4) 参加費：500円

※お問い合わせは中村(nakamura@jaas.jp)までお願いいたします。

(3) 第69回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2019年9月26日(木) 15:00~18:00
- 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第6共同研究室
- 3) テーマ：「私は誰であったのかーチェ・ゲバラの晩年の日記でのつぶやきー」
- 4) 発表者：濱口晴彦座長
- 5) 参加費：300円

※お問い合わせは、島村(ken-sima1941@jcom.home.ne.jp)までお願いいたします。

(4) 第59回「災害と地域社会」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2019年10月11日(金) 18:00~20:00
- 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス39号館6階第7会議室
- 3) 報告者：小林 秀行(明治大学 情報コミュニケーション学部)
- 4) テーマ：「災害復興とは何かを再考する～当事者の「生」を成立させるという視点から～」
- 5) 参加費：当分の間、頂戴しません

※ お問い合わせは、福原(fukuhara@jaas.jp)までお願いいたします。

3. 各研究会の概要報告

(1) 第1回「社会情報研究会」の報告

- 1) 日 時：2019年7月24日(水) 15:00~17:00
- 2) 場 所：インスクエア上野 会議室
- 3) 概 要：参加者の自己紹介と参考図書の内容説明
- 4) 齋田陽一氏による「ビッグデータの正体」(2013年、ビクター・マイヤー=ショーンベルガー、ケネス・クキエ著、斎藤栄一郎訳：講談社)の要点の説明

ビッグデータを扱うことでデータが語り始める。例えば、検索数だけでインフルエンザの流行を予測したり、航空券の価格を予測できたりする。また、今まで、小規模なデータではできなかったことが大規模データを扱うことで可能になる。例えば、ビッグデータを扱うことで相関関係から予測して実戦活用し、因果関係は求めない、つまり「結論が分かれば、理由は要らない」という考え方の転換が起きている。

さらに、ビッグデータ利用によりアルゴリズム依存が進み、人権侵害や人間性否定の危険性が高ま

ることも考えられる。それはプライバシー侵害や人間が「確率データ」で評価されるということで現れてくる。(森 記)

※第2回「社会情報研究会」は、8月19日(月)に開催されます。

(2) 第68回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

- 1) 日 時：2019年7月25日(木) 15:00~18:00
- 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第6共同研究室
- 3) テーマ：「傾聴は何故大事か」
- 4) 発表者：碓 正義(濱口研究会フェロー)

碓さんは、現役時代「傾聴」に関係する仕事に従事されていたこともあり、また現在も「傾聴ボランティア」を続けておられ、その豊かな経験をベースにした貴重な発表をいただいた。配付資料は、「傾聴について」とのタイトルで、傾聴とは何か、傾聴の大切なポイントは何か等について語られた。聴いてもらう側の立場に関して、人は人に話を聴いて貰う事によって本当の自分に出会うことが多いこと。行き詰っている時、自分を見失いそうな時、心を開いて話ができる人が身近にいるかいないかでは心の健康に大きな違いが出て来ると言われた。そして最後に、人と人との触れ合いや気持ちの繋がりが薄れてきている今の時代、「聴く」ことの重要性はこれからますます高まって行くように思うと述べられた。

濱口座長は、ことばと意味と理解の3語は傾聴を構成するエッセンスであること。傾聴は資本主義の発達に意味を持っていること。親子、夫婦、第三者など人間関係と空間的な出来事は、その人の孤独は意味が違って来るので、傾聴は社会的に意義がある。そしてAIの世界では、AIと人間の間で傾聴は成り立つのかに関心がある等コメントされた。(島村記)

(3) 第58回「災害と地域社会」研究会の報告

- 1) 日 時：2019年7月30日(火) 18:00~20:00
- 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス39号館6階第7会議室
- 3) 報告者：池田恵子(静岡大学教育学部教授)
浅野幸子(減災と男女共同参画研修推進センター共同代表)
- 4) テーマ：「ジェンダー視点の災害研究の国内外の動向：復興指標への示唆」
- 5) 報告概要

はじめに池田が、海外ではすでに蓄積がある「災害とジェンダー」研究・実践の動向について報告した。「災害とジェンダー」という課題は、1970年代以降、途上国地域における人類学・地理学的研究で災害概念が問い直され、被害を拡大させる社会・経済・文化的な構造的要素が重視される中で認知されてきた。当初は階層やエスニシティの問題が注目されたが、1990年代になるとジェンダー・年齢・障害などの観点からも災害研究が行われるようになった。また、世帯内の資源配分に着目した飢饉研究も影響を与えた。これらの研究の土台となってきた理論は、①脆弱性論(例：固定的性別役割規範による男性稼ぎ主を想定した夫婦世帯優遇システムが、女性の低賃金や母子世帯の貧困を招き、女性が災害時に一層厳しい状況に置かれる)、②リベラル・フェミニズム(地域・行政・関連機関への女性の参画/排除、支援へのアクセスの性別による格差など)、③開発とジェンダー論(女性を男性や社会との関係で捉え、主体としての女性と女性のエンパワメントを重視)である。

2000年代中ごろから「災害とジェンダー」研究は加速し、生存・健康、暴力、親密性と家庭生活、住居、雇用、草の根グループと復興など従来からの課題に加え、ジェンダーとエスニシティ・階級などの交差性、男性の経験と男性性、セクシュアリティ、ジェンダー平等と災害予防の関係、気候変動など新たな視点による研究も増えていることが紹介された。

さらに、2004年のインド洋大津波で大きな被害を受けたインドネシアのアチェでの復興事業におけるジェンダー指標導入の事例についても説明があった。

次に浅野より、「災害とジェンダー」に関する国内の実践・政策動向と、研究動向について報告があった。地域防災活動領域では、従来から女性も活躍していたが、固定的な性別役割分業を前提としたものだった。災害時の犠牲・困難におけるジェンダーによる差異や、背景にある権力構造の不平等との関係で災害が語られるようになったのは、阪神・淡路大震災であり、それが社会的に共有されるようになったのは東日本大震災後であること。国内の論文を調べたところ、東日本大震災後は、論文の数はある程度増加傾向にはあるものの海外とは比較にならず、総論として語られるものは比較的多い一方で、個別領域の論文はわずかしかなことが明らかになったことが報告された。

以上を踏まえて、最後に池田から、災害とジェンダー研究のこれまでの蓄積を踏まえ、国内の災害復興に関する研究に対する問題提起が行われた。(浅野幸子・池田恵子記)

(4) 第120回「社会保障」研究会の報告

- 1) 日 時：2019年7月31日(水) 18:00~20:00
- 2) 報告者：大風 薫(国立大学法人お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター 准教授)
- 3) テーマ：「働く男女介護者における介護と就業の関わり」
- 4) 会 場：日本労働者協同組合連合会 会議室
東池袋1-44-3 池袋ISP タマビル 8階

現在の日本で働きながら介護を担う人は約346万人と増加中である。育児・介護休業法やそれにもとづく職場における仕事と介護の両立支援により、働く介護者のワークライフバランスを支援する環境は整備されつつあるが、介護を理由とした離職者は未だ年間約10万人に達する。高齢化が進展する社会において、働きながら介護を担うニーズは男女ともに高まると予想される。そこで本報告は、働きながら介護を行う男女就業者に着目し、介護開始時の就業先への継続就業がどのような要因によって規定されるのかを量的調査の分析結果によって明らかにすることを目的に行った。使用データは独立行政法人労働政策研究・研修機構が2014年に実施した「仕事と介護の両立に関する調査」であり、全国の就業介護男女1370人について、クロス分析およびロジスティック回帰分析を行った。

分析の結果得られた主な知見は、①介護開始時の勤務先の継続就業確率を高めるのは「有配偶」「勤務先に介護休業制度が整備されていること」「勤務先以外からの介護に関する具体的な情報提供支援」「職場に介護経験者がいること」、②継続就業確率を低下させるのは、「雇用形態(派遣契約・パート)」「中高卒」「主たる介護者であること」「介護従事期間が長いこと」「職場に育児中の女性がいること」であった。以上のことから、就業継続については、勤務状況や職場の支援のみならず、家族要因や介護者との関係性といった複合的な要因が関連することが明らかとなった。(大風 薫記)

(5) 第14回「ライフプロデュース」研究会の報告

- 1) 日 時：2019年7月31日(水) 18:00~20:00
20:30~銀座界隈で納涼会
- 2) 場 所：内幸町 日本プレスセンター内日本記者クラブ9階ラウンジ
- 3) テーマ：「人付き合いの距離感(間)」

人との付き合い方での距離感なのか、人間関係を良好・融和に導くための距離間一なのか。難しいが重要な課題だけに、80代から50代までの男女10人が参加。全員が現在、他人との距離感をどのように感じているのかについて率直な思い・体験を発表し合った。その結果、シニア期の「人との距離感」を良い状態に保つには、既存の関係や組織の維持のみに力点を置くのではなく、個人や社会にとって良いと思われる方向を見抜き、選んでいく必要がある—この点に話題が集約された。そんな議論の中から「良い感じの距離間」「できれば距離を遠ざけたいケース」などの二分類に分け、格好な数例を紹介しよう。

まずは、最も多数の意見が集まった「良い感じの距離感」とは。古くからある団地にカフェが新設され、シニアの集いが誕生して気を許す中に、「そこで出会ったと思われる関係の中で、日々淡々と将棋を打つ男女シニアの姿は一つの理想では」(60代、男)。「距離感は気にしたことがない。多々

のボランティア活動に参加や運営して思うのは、何よりも役割が大事ということ。役割が人をつくる。人それぞれの出来ることに合わせて役割付けをしてあげると、うまく行く」(80代、男)。50代の女性は「同窓会でベテラン世代と若年世代で運営方針の意見が分かれ、すり合わせも上手くいかず。が、意見集約に固執せず、各世代が良いと思う企画を実施したら互いに良い刺激に。

衝突を避けつつ活性化し、良かった」。キャビンアテンダントから一転、小学校の英語補助教師として学校現場に。学校の主力20～30代教員は、浅い経験値を駆使して学級運営をせねばならず、手一杯な印象。一方、シニア世代は組織から一定程度自由であり、豊富な経験を基に現場を乗り切る術を備えている。行き詰まりを見せる社会諸現象を変えていけるのはシニア世代なのではないか」(60代、女)・・・。

一方、「距離を遠ざけたいケース」。まず「夫の趣味である弓道の会に参加したが、女性がお茶と弁当の世話役になっており、その点だけを見てすぐ辞めた」(60代、女)。「退職してからは、会社時代の付き合いや同級生との付き合いなどは、相手から声が掛かったら応えるが、気が進まないものは積極的に持たないようにしている」(60代、男)。

これらの症例以外にも、「距離をもっと近づけたいケース」とか個人、集団の場合では、にまで議論が深まり「適度な距離感」を巡る討論は二次会の納涼会にまでずれ込んだ。

※この月例会の詳細は、「ライフプロデュース」研究会のブログでご覧願います。 (皆川 記)

一般社団法人シニア社会学会・事務局 (水、および月または金オープン)
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-27-4 ナカヤビル202
電話&FAX : (03) 5778-4728
eメール : jaas@circus.ocn.ne.jp URL : <http://www.jaas.jp/>